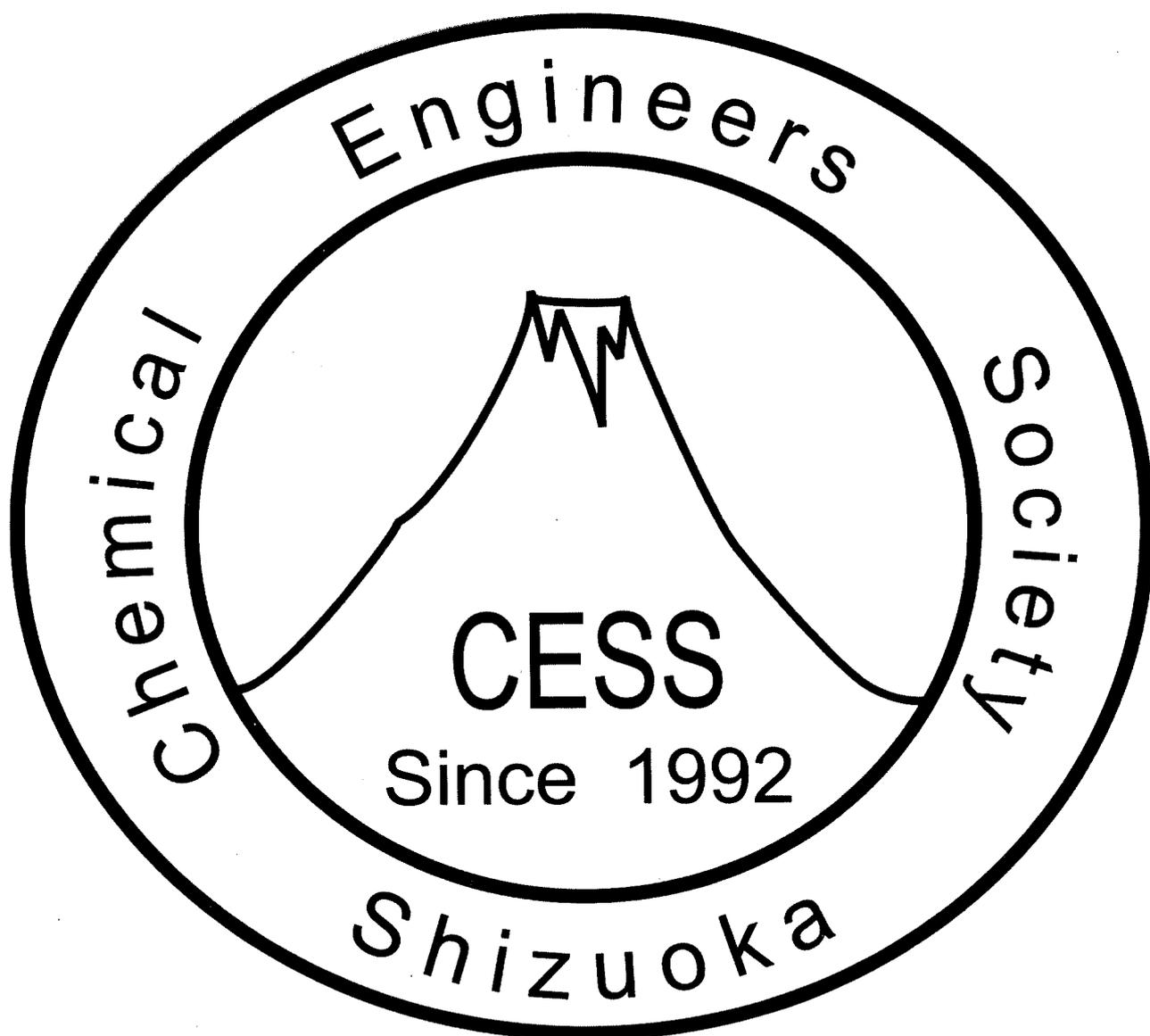


静岡化学工学懇話会

会報

第32号



目 次

ご挨拶 会長（令和6年度） 菅 公一	2
令和5年度 事業報告.....	3
令和5年度 役員会・総会・第61回静岡コロキウム・見学 会顛末記	8
令和5年度 企業・研究機関見学会 顛末記.....	10
第29回 企業技術交流会 ―社会で役立つ化学工学的思考― 顛末記	12
第31回 静岡フォーラム／第56回 研究交流セミナー 顛末記	15
役員名簿（令和6年度）（令和6年5月9日現在）	17
令和6年度 事業計画.....	18
会員企業ルポ 29th	21
静岡化学工学懇話会ホームページのご紹介.....	23
会員名簿（令和6年5月9日現在）	24
静岡化学工学懇話会 規約.....	28
入会のご案内	31
静岡化学工学懇話会 法人会員 入会申込書.....	32
静岡化学工学懇話会 個人会員 入会申込書.....	33

編集後記



ご挨拶

静岡化学工学懇話会

会長（令和6年度） 菅 公一

会長職は2期(2年)を基本としておりますが、今期も引き続き務めさせていただき予定でおります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

静岡化学工学懇話会は、化学工学会東海支部と連動した形で平成4年(1992年)に静岡県地区での産官学の交流の促進と活性化を目的に発足しました。発足以来、化学分野の業種に限らず、機械、電気、材料、エネルギー、環境、食品、情報など広範囲の分野と交流しております。

日本を取り巻く情勢としては、日本銀行が世界最後のマイナス金利政策から脱却する一方、海外の主要中央銀行が利下げに向かうことで、今後はさらに円高が進むと市場関係者は予想しております。自動車関連を含む輸出企業は好景気に沸いており大手から始まった賃上げも中小企業へ移行が進んでいるところです。円安の進行は心配な点ではありますが、国内生産増強に合わせて設備投資が進めば化学工学に関わる方々の活躍出来る場も広がるのではないかと期待しております。

化学工学との関わりがあるエレクトロニクス分野の中にロボットがあります。国内においては人口減少対応として省力化が積極的に進められております。飲食店における搬送ロボットの導入及び進化には感心するところであります。残念ながら搬送ロボットとの会話は出来ませんが、自然な会話が可能となるまで時間がかからないと思われます。そこはしみな分野ではあります。ロボット以外に、生活に欠かせないテレビ、パソコン、携帯電話などに使用される半導体、さらに燃料電池、素材、エネルギーの生産プロセスや工場のシステム開発など、製品のすべてに化学工学が関わっています。化学工学の世界はまだまだ広がる余地があると思ひます。

令和6年(2024年)正月は石川県能登地方を中心とする大地震で始まりました。被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。自然災害の前では人は無力です。だからこそ少しずつではありますが出来ることの積み重ねが大切で、県や国任せではなく個々の力の結集が重要になってきております。もう一度、私どもに何が出来るかを考える良い機会だと思ひております。

最後に、昨年と同じになりますが日本では八百万の神の信仰思想から、物にも神が宿るといひます。そこには長い時間磨き上げた技術を持つ職人の手を介した各製品についてさまざまな伝承をしてきた歴史があります。それらは高いレベルで多くの人々の手を介した工業製品につながり、数多くの奇跡を見せてくれました。化学工業界においてもより多くのエンジニアの技術と想いを載せて前進してくれると信じております。その輝かしい化学工学の未来に向かつて

令和5年度 事業報告

主催行事：

(1) 役員会

開催日：令和5年6月12日（月）

会 場：日本軽金属（株）蒲原製造所

参加者：16名

内 容：事業・会計報告及び承認、事業計画・予算案の審議及び決定

(2) 総会

開催日：令和5年6月12日（月）

会 場：日本軽金属（株）蒲原製造所

参加者：21名

内 容：事業・会計報告及び承認、事業計画・予算案の審議及び決定

(3) 第61回 静岡コロキウム、見学会

開催日：令和5年6月12日（月）

会 場：日本軽金属（株）蒲原製造所

内 容：研究事例紹介、見学

参加者：23名

共 催：化学工学会東海支部

(4) 令和5年度 企業・研究機関見学会

開催日：令和5年7月11日（火）

会場：テイボー（株） MIM（金属射出成形）開発センター

静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター

内容：工場見学、研究事例紹介、研究室見学

参加者：23名

共催：静岡地区産学連携コーディネータ会議

(5) 第29回 企業技術交流会

開催日：令和5年12月18日（月）

会場：静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館

テーマ：社会で役立つ化学工学的思考

内容：企業発表13社

参加者：86名

共催：化学工学会東海支部

協賛：静岡大学食品・生物産業創出拠点

(6) 第31回 静岡フォーラム／第56回 研究交流セミナー

開催日：令和6年1月26日（金）

会場：アクトシティ浜松 コンgressセンター

テーマ：デジタルで変革する化学工学と生物工学

内容：講演4件

参加者：69名

主催：静岡化学工学懇話会、化学工学会東海支部

後援：静岡大学産学連携協力会、静岡大学食品・生物産業創出拠点

協賛：浜松新エネルギー研究会

出版事業

第31号 会報発行（令和5年6月12日）

共催・協賛・後援行事

- (1) [協賛] 『カーボンニュートラルへの化学工学』出版記念シンポジウム
開催日：令和5年5月25日（木）
会 場：名古屋大学 野依記念学術交流館
主 催：化学工学会東海支部

- (2) [協賛] 第16回機器分析講習会
開催日：令和5年6月19日（月）
会 場：Zoomの「ブレイクアウトルーム」を使用したライブ配信
主 催：化学工学会東海支部

- (3) [共催] 第47回 基礎化学工学演習講座（第1, 2クール）
開催日：令和5年7月
会 場：Zoomによるライブ配信を併用したオンライン方式
主 催：化学工学会東海支部

- (4) [共催] 第47回 基礎化学工学演習講座（第3クール：1日単位・ライブ配信）
開催日：令和5年8月上旬～中旬
会 場：Zoom（またはTeams）によるライブ配信を利用したオンライン方式
主 催：化学工学会東海支部

- (5) [共催] 第47回 基礎化学工学演習講座（実験クール）
開催日：令和5年9月7日（木）
会 場：名古屋工業大学
主 催：化学工学会東海支部

- (6) [後援] パテント部会 9月定例会
開催日：令和5年9月20日(水)
会 場：静岡市産学交流センター (B-nest)
主 催：(一社) 静岡県発明協会
- (7) [共催] 第10回初歩からの化学工学数学演習講座
～データ解析および時系列データ分析の基礎～
開催日：令和5年11月10日(金)～12月8日(金)
会 場：オンデマンド配信
主 催：化学工学会東海支部
- (8) [協賛] 化学工学会東海支部 第108回講演見学会
「アンモニア混焼発電実証炉：JERA 碧南火力発電所4号機」
開催日：令和5年12月1日(金)
会 場：JERA 碧南火力発電所
主 催：化学工学会東海支部
- (9) [協賛] 分離技術会第19回東海地区分離技術講演会
/ ダイナミックプロセス応用分科会第1回研究討論会
「産業活動由来の窒素化合物の資源化に貢献する変換技術と分離技術」
開催日：令和5年12月8日(金)
会 場：名古屋工業大学鶴舞キャンパス (Zoomおよび現地ハイブリッド開催)
主 催：分離技術会、化学工学会システム・情報・シミュレーション(SIS)部会、
ダイナミックプロセス応用分科会
- (10) [協賛] 第57回 化学工学の進歩講習会
「サステナブル社会に貢献する固液分離技術 ー水浄化と資源循環」
開催日：令和5年12月14日(木)、15日(金)
会 場：ウインクあいち (会場とZoomライブ配信を併用したハイブリッド方式)
主 催：化学工学会東海支部

(1 1) [後援] パテント部会 1 2月定例会

開催日：令和5年12月20日（水）

会 場：静岡市産学交流センター（B-nest）

主 催：（一社）静岡県発明協会

(1 2) [協賛] 第125回東海技術サロン（CSTC フォーラム）

「データドリブン経営を進めるための 経営者の役割と必要なステップについて」

開催日：令和6年2月13日（火）

会 場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋ルーセントタワー

主 催：化学工学会東海支部、（公財）中部科学技術センター、東海化学工業会

令和5年度 役員会・総会・第61回静岡コロキウム・見学会

顛末記

令和5年6月12日（金）11:45～16:30に、日本軽金属（株）蒲原製造所（静岡市清水区蒲原161）において、「令和5年度役員会・総会」および「第61回静岡コロキウム・見学会」が開催されました。参加者数は役員会16名、総会21名、コロキウム23名でした。

「役員会・総会」では、菅公一会長の挨拶の後、令和4年度の事業報告がされました。次に会計報告および監査報告があり、承認されました。また、令和5年度の事業計画および予算案が報告され、承認を得ました。最後に、会誌31号が紹介されました。

「役員会・総会」に引き続き、「第61回静岡コロキウム・見学会」として、まず見学会が行われ、続いて講演会が開催されました。見学先である日本軽金属（株）蒲原製造所では、自社内にある発電所（富士川第二発電所）において、自然の力を利用する水力発電で用いられる巨大な設備などを見学できました。また、過去に蒲原製造所内で使用していた（現在は稼働していない）アルミニウムの製錬設備である電解炉および付帯設備を見学しました。これまでは製錬設備で高純度のアルミ地金（純度99.7%程度）を電機・電子分野向けに供給していたとのことでした。最後にケミカル工場では、アルミニウム製錬用の原料である苛性ソーダ（併産される水素、塩素）の製造の様子について見学しました。

見学会後に、講演会場に戻り、2件の講演がなされました。

1件目講演は日本軽金属（株）蒲原製造所の小澤康平氏により「日本軽金属の化学品事業紹介とカーボンニュートラルへの取り組み」との題目でご講演をいただきました。この講演では、会社の紹介、化学品事業紹介、カーボンニュートラルへの取り組みについて、詳しく説明していただきました。

2件目講演は静岡大学工学部化学バイオ工学科の茂木堯彦氏により「結晶性マイクロ多孔質材料の開発」との題目でご講演をいただきました。この講演では、ゼオライト合成についておよびゼオライト合成の工夫例について、わかりやすく研究発表していただきました。

コロキウム・見学会が終了した後、うお鶏 清水店で懇親会が開かれました。菅会長の挨拶と乾杯のご発声の後、参加者による活発な情報・意見の交換が行われ、交流を深めました。良知副会長の懇親会の最後の締めで、盛会の内に終了しました。

ご講演をいただいた日本軽金属（株）の小澤康平氏、静岡大学の茂木堯彦氏および見学会・会場をお貸しくださいました日本軽金属（株）蒲原製造所の小澤康平様をはじめ日本軽金属（株）蒲原製造所の皆様に深く感謝申し上げます。

（文責 静岡大学 孔 昌一）

令和5年度 企業・研究機関見学会 顛末記

令和5年7月11日（火）に「企業・研究機関見学会」が開催されました。

10:20～12:00、テイボー（株）MIM開発センター（浜松市北区都田町11135）

13:10～14:50、浜松工業技術支援センター（浜松市北区新都田1-3-3）

なお、MIM（金属射出成形）は、Metal Injection Moldingの頭文字です。本見学会は、静岡地区産学連携コーディネータ会議（事務局：静岡市産学交流センター内）との共同で企画しました。参加者は23名でした。

午前中のテイボー（株）MIM開発センターでは、最初に、寺田洋文執行役員から、テイボー（株）の概要を紹介していただきました。テイボー（株）は、1896年に高級紳士帽子を製造する帝国製帽（株）として始まり、1950年代後半からは、帽子の原材料であるフェルト加工の技術を活かし、マーキングペン先の開発・製造を始め、ペン先事業を拡大し、継続的に成長を実現し1981年には、現在の「テイボー（株）」へ社名変更、2020年には創業125周年を迎えました。近年ではペン先製造技術を活かし、コスメティックの販売拡大、及びMIM製法による産業分野向け金属部品事業を拡大し四つの事業所、五つの拠点があります。MIMは最新の金属部品製造法の一つで、従来のプラスチック射出成形法と金属粉末冶金法を融合することによって生まれた複合技法です。金型を用いた射出成形により機械加工が困難な微細・精密部品や複雑形状・3次元形状の部品も容易に製造できるそうです。量産性にも優れテイボー（株）では月産1,000個～1,000,000個まで対応可能であり、近年では、これまで生産困難とされていた中空形状も生産可能だそうです。国内トップクラスの生産能力を有するMIMメーカーとして、世界へ向けさらなる飛躍を目指しているとのことでした。

午後には、浜松地域の試験研究開発を支援する機関である静岡県工業技術研究所浜松工業技術支援センターを見学し、産学官交流を行いました。本センターでは、特化技術としては光やレーザーに関する支援を行い、また基盤技術としては材料、機械、電子に関する支援を行っているそうです。

全体を通じて、情報・意見交換も活発に行われ、交流を深めることができました。ここに、本企画運営にご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

（文責 静岡大学 孔 昌一）



第 29 回 企業技術交流会

—社会で役立つ化学工学的思考—

顛末記

令和 5 年 12 月 18 日(月)13:30~17:00、静岡大学浜松キャンパス (浜松市中区城北 3-5-1) 佐鳴会館において、「第 29 回企業技術交流会 —社会で役立つ化学工学的思考—」が開催されました。コロナ禍では Web 開催にて続けられてきました本交流会ですが、平成 31 年 (2019 年) の第 25 回交流会以来、4 年ぶりの対面形式での開催となりました。オンライン開催期間中においては、双方にとって最適な開催方式の模索と試行錯誤がありました。会員の皆様のご尽力によって継続されてきましたが、急な対応であったこともあり、課題も多くありました。対面形式による交流会の再開が切望されていた中で、今回の開催が実現しましたことは、コロナ禍にあっても本交流会を継続されてきました皆様のご尽力の賜物です。当日は、会場となりました佐鳴会館に企業展示の設営等で午前中から人が集まり、久しぶりの静岡大学や学生食堂等を楽しまれた方もいらっしゃいました。オンライン開催期間中に減少してしまった参加企業数も盛り返し、以下の 13 社が参加してくださいました。

(株)エフ・シー・シー、(株)テクノスルガ・ラボ、静岡ガス(株)、(株)巴川製紙所
(株)大穂工業、(株)中央発明研究所、フロイント産業(株)、フクデ化学工業(株)
千代田エクスワンエンジニアリング(株)、サーラエナジー(株)、日本軽金属(株)
矢崎エナジーシステム(株)、静岡プラント(株)

佐鳴会館会議室において、菅会長の開会挨拶の後、各社のショートプレゼンテーションを行いました。会社の概要、業務内容、技術や展示物に関する簡単な説明など、各社の特色などをご発表いただきました。

各社のプレゼンテーションの後は、中央大学理工学部応用化学科 教授 船造俊孝氏に「塩基性熱水による脱ハロゲン化反応解析についての化学工学的なアプローチ」という題目でご講演をしていただきました。含ハロゲン化合物はハロゲン電子の電子吸引力により特異な化学的性質を示すことから、化学原料・工業製品・生活用品などの幅広く利用される材料であり、同時にハロゲン化合物を廃棄処理する技術の開発も望まれています。船造先生は従来の焼却処理の代替技術として、高い分解能力と経済性を併せ持つ熱水(超臨界・亜臨界水)による処理について検討されてきました。特に本講演では、化合物からの脱ハロゲン過程において、プロセスおよび装置設計に必要な不可欠な速度定数の算出や反応機構の解明などの、化学工学をベースとした体系的な研究についてご紹介いただきました。

その後、佐鳴会館ホールに移動し、企業と学生の交流会が行われました。化学バイオ工学科を中心とする静岡大学の工学部学生、工学修士学生が積極的に参加し、展示を行った企業との活発な交流が行われ、学生には地元静岡で活躍する企業に注目してもらい良い機会となりました。

講演会の後は、生協北館食堂において懇親会が開催されました。総じて、大成功といえる内容であったと感じております。

今回の交流会は、久しぶりの対面形式での開催にもかかわらず参加者の関心と積極的な参加が見られ、今後も以前のような盛況な会が続くことを予感させるものでありました。これからも交流の場が継続し、地域の産学連携や技術の発展に貢献することが期待されます。

(文責 静岡大学 茂木堯彦)





第31回 静岡フォーラム／第56回 研究交流セミナー 顛末記

令和6年1月26日(金)に「デジタルで変革する化学工学と生物工学」と題して第31回 静岡フォーラム／第56回 研究交流セミナーを開催いたしました。第1部講演会はアクトシティ浜松 コンgressセンター 52-54 会議室にて4件のご講演をいただきました。

1件目は、産業創造技術研究所から矢田陽先生をお迎えし、「機能性化学品生産のためのインフォマティクス」についてご講演いただきました。触媒化学に計算化学を融合させ、情報科学・データ化学に基づいた触媒開発について、機械学習の基礎からAIを用いた高度な収率予測に至るまで丁寧にご説明いただきました。自動連続評価システムやロボティクスを使った応用事例まで紹介いただき、今後の新しい発見の方法をご提示いただきました。

2件目は、富士電機株式会社の田中雅紀様に「包括的な機能を有するソフトセンサー設計ツール」をご紹介いただきました。オンライン測定が困難な状態変数をオンライン測定可能なプロセス変数から推定する「ソフトセンサー技術」について、その概要や効果をご説明いただきました。一般にソフトセンサーを構築するには高度に専門の知識が必要ですが、より容易に構築することが可能となる高度に作りこまれたツールとともに具体的な適用事例をご提示いただきました。

3件目は、筆者(静岡大学 武田)から「新規化学物質の生分解性予測システム AI-QSARの開発」をお話しいたしました。生分解性は、様々な手法を用いても予測精度を上げることが困難ですが、「予測しやすさ」を用いることにより、精度よく予測できるグループとそうでないグループに分けることができ、予測精度の信頼性を提示することができます。また、様々な手法を最適に組み合わせることにより予測精度を向上させられることもご提示いたしました。

4件目は、早稲田大学の木賀大介先生に「バイオDX: 遺伝子を人工的に組み合わせたシステムの設計と構築」と題して、生物工学におけるDXの最先端をご講演いただきました。生命を情報として捉え、これまでの生物工学から一線を画して数理モデルに基づいて多様性を意図的に生成させる画期的な手法を始め、根本的に発想を転換できる非常に示唆に富んだご講演をいただきました。

第2部の懇親会はホテルクラウンパレス浜松 1Fのシャンクレーン浜松にて行いました。須藤雅夫名誉会長のご発声で歓談を開始いたしました。第1部での講演会で聞き足りなかったことを講師に熱心に聞く姿もあり、また、化学工学や生物工学に限らず活発に歓談いただきました。さらに、今年度で退任される金原先生、木村先生のご挨拶をいただき、最後は木村先生のエールで盛会を締めることができました。コロナ禍が明け、今後もこのような機会を多く持てることを祈念しております。

(文責 静岡大学 武田和宏)



役員名簿（令和6年度）

（令和6年5月9日現在）

<会 長>

菅 公一 株式会社中央発明研究所

<副会長>

福原 長寿 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
良知 浩 静岡ガス株式会社

<幹 事>

立元 雄治 (庶務担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
渡部 綾 (会計担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
河合 文雄 (会誌担当) 有限会社ホープ・マネジメント
武田 和宏 (HP 担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻

伊藤 拓哉 沼津工業高等専門学校物質工学科
大石 剛之 株式会社大川原製作所
小澤 康平 日本軽金属株式会社
鬼久保 郁雄 静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター
木村 元彦 静岡大学
新谷 政己 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
村上 宣仁 サーラエナジー株式会社
竹口 昌之 沼津工業高等専門学校物質工学科
田代 陽介 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
豊田 和弘 矢崎総業株式会社
波多野 博憲 矢崎エネルギーシステム株式会社
孔 昌一 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
前澤 昭礼 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
間瀬 暢之 静岡大学グリーン科学技術研究所
鈴木 敬明 静岡県工業技術研究所浜松工業技術支援センター
村松 瑞夫 村松エンジニアリング株式会社
冨田 靖正 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
茂木 堯彦 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
岡島 いづみ 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
田代 啓悟 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
村上 裕哉 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻

<監 事>

松本 豊 公益財団法人静岡産業振興協会
金原 和秀 静岡大学

令和6年度 事業計画

主催行事

(1) 第1回役員会、総会

開催日：令和6年6月12日（水）

会 場：清水エル・エヌ・ジー（株）

内 容：事業・会計報告及び承認、事業計画・予算案の審議及び決定

(2) 第62回 静岡コロキウム、見学会

開催日：令和6年6月12日（水）

会 場：清水エル・エヌ・ジー（株）

内 容：見学、講演2件

共 催：化学工学会東海支部

(3) 第32回 静岡フォーラム／第57回 研究交流セミナー

開催日：未定

会 場：未定

テーマ：未定

内 容：講演

(4) 第30回 企業技術交流会

開催日：未定

会 場：未定

テーマ：未定

内 容：講演、ポスター・製品展示

出版事業

(1) 第32号 会報発行（令和6年6月12日）

共催・協賛・後援行事

(1) [共催] 第48回 基礎化学工学演習講座

開催日：6月—7月 第1クール、第2クール、第3クール

会場：Zoomによるライブ配信を利用したオンライン方式
(第3クールの一部はオンサイト ウィンクあいち)

主催：化学工学会東海支部

(3) [協賛] 第17回機器分析講習会

開催日：未定

会場：未定

主催：化学工学会東海支部

(4) [共催] 第11回 初歩からの化学工学数学演習講座

開催日：未定

会場：未定

主催：化学工学会東海支部

(5) [協賛] 第58回 化学工学の進歩講習会

開催日：未定

会場：未定

主催：化学工学会東海支部

(6) [協賛] 第126回東海技術サロン (CSTC フォーラム)

開催日：未定

会場：未定

主催：化学工学会東海支部

(7) [協賛] 第20回 東海地区分離技術講演会

開催日：未定

会 場：未定

主 催：分離技術会

(面談者) 取締役社長 遠藤恒介氏
取締役営業本部長 入月孝尚氏

会員企業を訪問し、事業活動の様子を取材させていただきご紹介するコーナーです。今号では、静岡市駿河区西脇に本社を置く遠藤科学株式会社を訪問し、取締役社長 遠藤恒介氏と取締役営業本部長 入月孝尚氏に同社の事業概要などについてインタビューさせていただきました。

1. 事業概要は

1947年（昭和22年）に理化学器械の製作および販売を開始、1952年（昭和27年）遠藤科学器械株式会社として法人化、1977年（昭和52年）に遠藤科学株式会社と改称し、現在に至っています。社員数は、240名です。

当社は、科学機器の専門商社として、研究所・試験場・学校などの公的機関から、自動車・製薬・電気・機械・化学工業・食品工業など、業種・業態を超えたあらゆる分野のニーズにお応えしています。お客様の高度なニーズにもお応えできる総合的な技術力を持ち、地域に密着した専門商社として、多くの研究者・技術者から高い信頼をいただいています。

取扱機器は、理化学機器・分析機器・電子計測器・試験機・光学機器・精密測定器・バイオ関連機器・真空装置等々、時代とともに急速に拡がり続けている科学機器など数千種にのぼり、最新の製品情報や豊富なノウハウ、高度な技術力を駆使した付加価値のある製品及びシステムの提供により、お客様の最先端のモノづくりを強力にサポートさせていただいております。

特に高度な専門知識を必要とする最先端機器については、確かな実績と豊富なノウハウを誇る「営業技術課」「科学計測課」「コンピュータ課」の3グループが営業をバックアップしています。常に最新知識と技術を養い、科学機器・計測器におけるトータルアドバイザーとして、専門化及び高度化するお客様のご相談にお応えし、一歩進んだご提案を心掛けています。

本社は静岡市にあり、営業所は、つくば・千葉・横浜・平塚・厚木・御殿場・三島・富士・静岡・島田・袋井・浜松・湖西・豊橋・安城の15ヶ所にあります。技術部分室が三島市にあります。

創業時製造の理化学器械



自社ブランド 電気定温乾燥器



左から遠藤社長、入月営業本部長



インテリジェント顕微鏡



ガスクロマトグラフ



3D測定レーザー顕微鏡

2. 顧客に対する技術面のサポート体制はどのようにしていますか。

商品は納入してからお客様との真の信頼関係が築かれていく、こう考える当社では、各地域にメンテナンス業務専任者を配置しています。特に動かさない大きな製品・高度な製品の故障時など直ちに対応できる体制を整えています。また、製品の保守管理や校正業務にとどまらず、機器インストールや取扱いなどもアドバイスをはじめ、丹念なメンテナンスで、未永くお客様のパートナーとして信頼にお応えしています。

- ・営業技術：分析機器、コンピュータシステム、バイオ機器、プロセス制御装置等、それぞれの高度な技術を習得し、客先担当営業をバックアップする。
- ・システム：科学機器とコンピュータをシステムアップして自動計測・計測制御のシステムを設計開発、また特注機器の設計・製作も行う。
- ・CE：納入機器の保守管理・定期校正のカスタマーエンジニア等を担当。

社員としては、文系・理系を問わず自身のスキルを磨き、お客様に価値をお届けしお客様と共に喜び合えるような仕事に生き甲斐を感じられる人材を求めています。

3. 今後の方向は如何ですか。

永年培ってきた専門的な知識と技術力を駆使してお客様の多様なニーズにお応えするためには、これまでの人による営業スタイルを大切にしながらも、DX化による営業業務高度化の継続した発展も主要課題のひとつとして捉えています。

これらをミックスした当社オリジナルの営業形態をますます進行させることで、お客様のお役に立つ高い付加価値をご提供するとともに、日本の科学技術の発展にスピード感を持って貢献することを目指しています。

また、事業活動のみならず、今世界が直面している自然環境問題の解決や、地域社会との調和を図り、お取引先様、地域の皆様、従業員など当社と関わる全ての方々から愛される企業を目指して参ります。

今回は、会員企業の遠藤科学株式会社を訪問しました。同社は、大学、公設試、企業など顧客の研究開発を支える科学機器の専門商社として発展してこられました。理化学器械の製作および販売がはじまりとことから、モノづくり精神がベースにあってのビジネス形態が、最新の科学機器の普及において顧客の信頼を得ることに繋がっていることが伺えます。

顧客の最先端技術開発への一層の貢献を目指して事業に邁進していただきたいと思います。

今後の同社の益々のご発展をお祈り申し上げます。

リポーター 幹事 河合文雄

静岡化学工学懇話会ホームページのご紹介

静岡化学工学懇話会のホームページではコロキウム、フォーラム等の各種行事の告知のほか、会報のバックナンバーの閲覧や各種行事への参加申込みが可能となっております。是非ご覧下さい。

URL : <http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/wordpress/cess/>

各行事において「関係者の方は写真をこちらに置きましたので御覧ください。」とある箇所は、以下のメール（アカウント）、およびパスワードでログインするとご覧いただけます。

メール（アカウント）：

パスワード：

懇話会事務局のメールアドレスもごさいます。各種行事へのお問い合わせや参加のお申込み、懇話会へのお問い合わせにご利用ください。

懇話会事務局 E-mail : cess@shizuoka.ac.jp

法人会員の皆様に本会ホームページからのリンクをお願いしております。よろしければ、事務局宛にリンク先URLをお知らせ下さい。ホームページに関するご意見やご要望などがございましたら、是非事務局宛にお知らせ下さい。



懇話会ホームページ（トップページ画面）

（文責 静岡大学 武田和宏）

静岡化学工学懇話会 規約

平成 25 年 7 月 12 日 改正

平成 10 年 5 月 26 日 改正

平成 4 年 7 月 29 日 懇話会発会式において制定

第 1 章 総則

(名 称)

第 1 条 本会は、公益社団法人化学工学会東海支部の静岡化学工学懇話会という。

(事務局)

第 2 条 本会は、事務局を静岡大学工学部内、連絡事務所を沼津工業高等専門学校内におく。

(目 的)

第 3 条 本会は、静岡県地区における化学工学並びに関連する科学技術の進歩発展に努めるとともに、会員相互の交流を深め組織的な事業推進を通じて、相互の研究開発機能を促進し、もって地域産業の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 講演会、講習会、座談会、見学会などの開催
- (2) 化学工学会および諸学会・研究会等との交流
- (3) 会員相互間での技術指導並びに相談の斡旋および実施
- (4) 調査研究、情報の収集・提供
- (5) その他目的を達成する為に必要な事業

第 2 章 会員

(種 別)

第 5 条 本会の会員は、本会の目的に賛同して入会した団体または個人とする。

(入 会)

第 6 条 会員になろうとする者は、入会申込書を会長に提出しなければならない。

(会 費)

第 7 条 団体会員または個人会員になろうとする者は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(退 会)

第 8 条 会員は、退会しようとするときは、その旨を会長に届出なければならない。

(会費等の不返還)

第 9 条 会員がすでに納入した会費その他の拠出金品は返還しない。

第3章 役員

(役員の種類および選任)

第10条 本会に次の役員をおく。

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 若干名 |
| (3) 幹事(会長および副会長を含む) | 若干名 |
| (4) 監事 | 2名 |

2 会長は、総会の推薦により選任し、その他の役員は総会の推薦により、会長がこれを委託する。

3 役員に準じて、名誉会員をおくことができる。名誉会員は、懇話会発展の貢献者の中から会長が委嘱する。

(役員の仕事)

第11条 会長は、本会を代表し、業務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、業務を処理するとともに、会長に事故があるとき、または欠けたときは、会長があらかじめ役員会の議決を経て定めた順序により、その職務を代行する。

3 幹事は、業務を執行する。

4 監事は、会計を監査する。

5 名誉会員は懇話会の行事に参加し業務について意見を述べることができる。

(役員の仕事)

第12条 役員の仕事は、2年とする。但し、補欠として選任された役員の仕事は前任者の残任期間とし、増員により選任された役員の仕事は現任者の在任期間とする。

2 役員は、再任されることができる。

第4章 総会

(総会の開催)

第13条 総会は年1回開催を原則とし、会長がこれを召集する。

(総会の機能)

第14条 総会では、本会の運営に関する次の事を行う。

- (1) 事業、会計の報告および承認
- (2) 役員の仕事
- (3) その他の必要事項

2 総会の議決は、出席者の過半数をもって決する。

第5章 役員会

(役員会の構成)

第15条 役員会は、会長・副会長・幹事をもって構成する。

(役員会の機能)

第16条 役員会は次に掲げる事項を議決する。

- (1) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (2) 総会に付議すべき事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(役員会の開催)

第17条 役員会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 役員5分の1以上から会議の目的を示して開催の請求があったとき。

(役員会の召集)

第18条 役員会は、会長が召集する。

(役員会の議長)

第19条 役員会の議長は、会長がこれにあたる。

第6章 資産、事業計画等

(資産の構成)

第20条 本会の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 会費
- (2) 寄付金品
- (3) 事業に伴う収入
- (4) その他の収入

(資産の管理)

第21条 資産は、会長が管理し、その方法は会長が役員会の議決を経て定める。

(事業年度)

第22条 本会の事業年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わる。

第7章 雑則

(委 任)

第23条 この規約の施行について必要な事項は、会長が役員会の議決を経て別に定める。
なお、規約の改正は総会の議決による。

(付 則)

本規約は平成25年7月12日から施行する。

入会のご案内

静岡化学工学懇話会は平成4年に静岡県地区で産官学の交流の促進と活性化を目的に設立されました。化学分野の業種に限らず、機械、電気、材料、エネルギー、環境、食品、情報など広範囲の分野の交流を期待しています。

規約は前述および懇話会ホームページをご覧ください

会費は、現在以下の様になっています。

法人会員:年額 20,000 円

個人会員:年額 2,000 円

但し、化学工学会の維持会員、特別会員および正会員の会費は免除する

年間の事業内容は、講演会、講習会、見学会などの事業、会員相互の技術指導・相談の斡旋、学会および研究会との交流、および調査研究、情報の収集・提供など活発な活動を計画しています。

設立の主旨および規約にご賛同していただき、ぜひとも入会をお願い致したく、ご案内申し上げます。

申込先:

〒432-8561 浜松市中央区城北3-5-1

静岡大学工学部化学バイオ工学科内

静岡化学工学懇話会事務局

FAX : (053) 476-0095

E-mail : ccss @ shizuoka.ac.jp

会費の振込先:

スルガ銀行 浜松追分支店 普通預金

口座番号 1481354

名義人 静岡化学工学懇話会

入会申込書を FAX または郵送にて事務局までお送り下さい。

静岡化学工学懇話会
法人会員 入会申込書

静岡化学工学懇話会の趣旨に賛同し、下記のとおり法人会員として入会を申込みいたします。

申込年月日		令和 年 月 日
会社名または事業所名		
会社代表者または事業代表者		
連絡担当者	氏名	印
	部署	
	役職	
	連絡先住所	〒 TEL : FAX : E-mail :
化学工学会における会員資格		<input type="checkbox"/> 特別会員 ・ <input type="checkbox"/> 維持会員 ・ <input type="checkbox"/> 非会員

※上記情報は、静岡化学工学懇話会が関係する行事の案内や連絡のみに使用します。

静岡化学工学懇話会

個人会員 入会申込書

静岡化学工学懇話会の趣旨に賛同し、下記のとおり個人会員として入会を申込みいたします。

申 込 年 月 日		令 和 年 月 日	
申 込 者 氏 名		印	
連 絡 先	自 宅 の 場 合	住 所	〒 TEL : FAX : E-mail :
		会 社 名	
	部 署 名		
	役 職		
	勤 務 先 の 場 合	住 所	〒 TEL : FAX : E-mail :
化学工学会における会員資格		<input type="checkbox"/> 正会員 (会員番号) <input type="checkbox"/> 非会員	

※上記情報は、静岡化学工学懇話会が関係する行事の案内や連絡のみに使用します。

<編集後記>

今年は春先から気温が乱高下して体調を整えるのに苦労します。円も乱高下を続けてしまい、安定的な発展が難しい状況です。地球温暖化対策としてCCS (Carbon dioxide Capture and Storage) やCCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage) の重要性はますます高まり、SDGs (Sustainable Development Goals) にも十分に気を配らねばならない時代になりました。本会会員が持つ化学工学を中心とした技術は、経済発展と環境問題が融合した複雑な問題に対しても十分に貢献できると信じています。会員の皆様の力を結集して今後の明るい未来を築いていきましょう。

(静岡大学 武田和宏 記)

静岡化学工学懇話会会報

<第 32 号>

発行／令和 6 年 6 月 12 日

静岡化学工学懇話会

会長 菅 公一

〒432-8561 浜松市中央区城北 3-5-1

静岡大学工学部化学バイオ工学科内

FAX (053) 476-0095

製作／静岡化学工学懇話会

(有)ホープ・マネジメント

TEL (053) 430-4239

FAX (053) 430-4238